

41年ぶり営業赤字

マック抱える

2014年12月期の通期業績予想を大幅下方修正し、創業3年目の1973年以来41年ぶりの通期営業赤字に転落する見通しとなった日本マクドナルドホールディングス。

中国の使用期限切れ鶏肉問題の影響は甚大で、あらためて中国依存のリスクを知らしめた。ただ、マックの抱える問題はそれだけではない。



厳しい表情で赤字転落を発表するサラ・カサノバ社長＝7日、東京都内のホテル

中国リスクと 構造的的問題

「今回の業績予想を深刻に受け止めている」以前は肩まで下ろしていた髪の毛を後ろでまとめたサラ・カサノバ社長は7日の緊急記者会見でこう語った。

営業損益の見通しは当初予想の117億円の赤字から94億円の赤字となったほか、最終利益も170億円の大幅な赤字に転落した。

期限切れの鶏肉を使っていた上海福喜食品からチキンナゲットを輸入し

た問題が「たいへん大きな財務インパクトを受けた」とカサノバ氏。中国食品問題で売上高が450億円減ったほか、特別損失も含めた利益の減少額は220億円にのぼるといふ。

問題が発生した7月以降、既存店の売上高は2ケタ減が続く。9月も月見パーガーが好調で、「妖怪ウォッチ」のおまけがついた子供向けのセットが「想定を大幅に上回る売れ行きだった」（財務担当役員）というものの、止血には至らない。「売り上げ減少が長引く可能性がある」（同）

経営の立て直し策として、カサノバ氏は「アプリを根本的に変えなければならぬ」として、情報開示の透明性や品質管理の強化、生産拠

点への抜き打ちの監査、既存店の刷新や改築などに取り組むと強調した。これまでも同社は危機を経験してきた。日本マクドナルドを創業した藤田田（でん）氏は「平日

半額」など低価格路線で売り上げを伸ばし、「デフレの勝ち組」と呼ばれたが、一転して「インフレが来る」と値上げを実施。経済状況を読み違えて最終赤字に転落した。

「店が老朽化、時代遅れ」という顧客の声をカサノバ氏自身があえて紹介したように、中国食品問題以前から業績は悪化していた。

外食産業に詳しいフードアナリストの重盛高雄氏は、「消費者に魅力のある商品を作り続けてきたコンビニとの努力の差がかなりある。（前任の原田氏同様）米国本社の

「まず必要なのはサイプレスレベルの向上。そして、効率一辺倒ではなく、おいしくて温かい商品を手軽に食べられるという原点に戻ることで」

米本社の意向ありき「コンビニに客奪われ」

そして3度目の今回。「高くなった。価格がよくわからない」「メニューが魅力的ではない」

「店が老朽化、時代遅れ」という顧客の声をカサノバ氏自身があえて紹介したように、中国食品問題以前から業績は悪化していた。

原田泳幸前社長時代やコンビニにお株を奪われている。350〜550円のセット「昼マック」で客を奪い返す狙いだが、重盛氏はこう指摘した。

シベリアで野生の誕生日

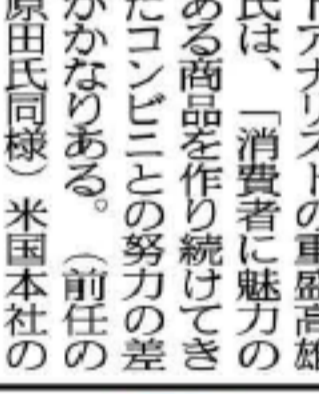
ロシアのプーチン大統領は7日、休暇を取りシベリアのタイガ（針葉樹林

帯で過した。ペスコフ大統領報道官によると、プーチン氏は集落から300〜400メートル離れた野生を楽しんだという。

ウクライナ危機で欧米から集中砲火を浴びながら、ほとんど休みなく働き続けたプーチン氏にと

「手抜き除染」記事め、

所朝S.月日



ロシアのプーチン大統領は7日、休暇を取りシベリアのタイガ（針葉樹林